

10月13日（月）

掘 る た め の 強 さ

聖書朗読 ルカ 13：1～9

番人は答えて言った。『ご主人。どうか、ことし一年そのままにしてやってください。
木の回りを掘って、肥やしをやってみますから。』 ルカ 13：8

妻は庭の手入れが好きです。植え込みを剪定したり、鉢植えを日の当たる場所に移動させたり、落ち葉を掃いたりしています。妻は自分ではできないことがあると、私を呼びます。それは、たいてい不要になった植物の根を掘り起こして、取り除くことです。

妻は聖書の学びをしているときも、同じことをします。聖書の箇所が思い出せないとき、私に助けを求めますし、私も同じことをします。私たちは二人とも、聖書に書かれてあることの背景や意味を考えながら、みことばを「掘る」のが好きです。

聖書の学びとは「掘る」ことです。瞑想、思考、祈り、そして「掘る」ことなしに聖書を読むことはできません。今日の聖句は、イエス様が悔い改めのことを話されていらっしゃるようですし、悔い改めが主題のように思えるので、一見したところでは、ふさわしくないように思えるかもしれません。でも、実を結ばないいちじくの木について考えてみましょう。何かを生み出す前には、何かを必要とするのです。このいちじくの木のように、私たちは変わることが必要かもしれません。霊的な実を結ぶ前に、罪を告白したり、許したりすることが必要なのかもしれません。変化が起こるなら、栄養分が中に入ることができるように、硬い土が崩れるのです。

讃美歌 503

祈 り 親愛なる主よ。私たちの心という土に変化が起きることが必要なときがあります。今日、あなたと一緒に歩むために自分の進む道を変更するとき、どうぞ私と一緒にいてください。

主の御名において。アーメン。

ジョージ・V・モーテンセン
ワシントン州 カークランド

今日の力

2014年 10月13日～10月19日

翻訳 村越克子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

10月14日(火)

再 び 生 き る

聖書朗読 ルカ 15：11～20

しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛ゆえに、罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——
エペソ 2：4～5

昨年、米南部ミシシッピ州で死亡と診断されたウォルター・ウィリアムズ氏という78歳男性が、遺体用の袋に入れられて葬儀の場所へ運ばれた後、袋を蹴るような動きなどを見せて存命を知らせる出来事がありました。ウィリアムズ氏の死亡を診断した検視官は、22年間の職務経験を持つ人で、ウィリアムズ氏の心拍が止まったものと信じて、夜9時にウィリアムズ氏が死亡したと判断しましたが、彼の心臓は再び動き出したのです。検視官は「これは奇跡だ」と語りました。ウィリアムズ氏の家族は「ウォルターは生きていることを幸せに感じている」と報告しましたが、私もそう思います。

ウィリアムズ氏が肉体的に経験したことを、すべての人が霊的に経験することができます。放蕩息子は最後には父親のもとに帰りました。そして、父親はこう言いました。『だがおまえの弟は、死んでいたのが生き返って来たのだ。いなくなっていたのが見つかったのだから、楽しんで喜ぶのは当然ではないか。』(ルカ15：32)と。ウィリアムズ氏の家族が、彼が生き返ったときに喜んだのとは比べものにならないくらいに、父なる神様は、子どもたちである私たちが悔い改めて、いのちを取り戻し、御父のもとに帰って来ることを喜んでくださいます。

赦しは現実のことであり、御父は私たちの姿を見て、駆け寄ってくださり、
私たちを愛してくださいます。
御子は神様の赦しのしるしであり、この失われた世界には他にはないものです。
———*Alice Cary*

讃美歌 517

祈 り 最も親愛なるお父様。あなたの豊かな御恵みと御子のうちある私たちの新しいいのちを感謝します。
イエス様の御名において。アーメン。

マーク・R・ガイ
カリフォルニア州 バレイオウ

10月15日(水)

私 の 対 価

聖書朗読 ヨハネ 3：10～21

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。
ヨハネ 3：16

人は、難易度に関係なく、達成したことを評価する傾向があり、一方で努力を要する報酬や情緒的エネルギーを発揮する必要のある報酬を大事にします。たとえば、夢を実現するために頑張ったり、あるいは時間や労力、楽しみ、睡眠を削った結果、学校でいい成績を取ったり、仕事で評価されることに感謝します。私たちは、情緒的な値札に比例した経験や賞賛を評価するようです。

子どもの大学の授業料を払うために、余分に仕事をしている親がいます。そういう人たちは、人に対する愛情から、他の人が幸せになったり、成功するために自分自身の楽しみを犠牲にするものです。しかし、そういった犠牲の恩恵を受けている人の大半は、自分の代わりに払われた対価に気づかず、十分な感謝をしません。

私の贖いの対価を考えると、つまり、御父が私のために払ってくださった対価を考えると、宇宙の造り主である御父が、私のような者のために——評価にさえ当たらない、まったくその価値がない者のために、——あまりにも大きな対価を払ってくださったことに感謝し、御父の貴い愛に頭をたれます。

讃美歌 第二編 194

祈 り 主なるお父様。私の全存在においてあなたを讃美します。あなたの愛についてもっと理解を深め、今日、私が他の人への愛を十分に広げることができま
すように。
キリストを通して。アーメン。

アリソン・マーティン
ルイジアナ州 シュルヴポート

10月16日(木)

貴い仕事

聖書朗読 ヨハネ 5:8~18

わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行なわなければなりません。
だれも働くことのできない夜が来ます。 ヨハネ 9:4

以前、大英博物館を訪れた際、詩人トマス・グレイが著した「墓畔の哀歌」を見るために文学コーナーに足を運びました。トマス・グレイは、彼の有名な「墓畔の哀歌(＝田舎の墓地で詠んだ挽歌)」を完成させるまでに75回も推敲を重ねました。トマス・グレイはこの詩を1742年から書き始め、1750年に書き終えるまでに大変苦心しました。大英博物館の文学コーナーのガラスケースの中にその詩はありました。修正が加えられた数ページの手書きのものでした。私は、それを見ることが許されたことを神様に感謝しました。というのは、その詩は神様に捧げられたものであり、私には神聖なものだったからです。

イエス様は「わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですからわたしも働いているのです」ときっぱりとおっしゃり、安息日に活動されることをよしとされました。創造主である神様は今日も働いていらっしゃる。アレキサンダー・ポープ(イギリスの詩人)は、「神様のもっとも高貴なみわざ」を思い起こさせます。神様が今もお働きになっている子どもや知人を、あなたは知っていると思います。あるいは、それはあなた自身かもしれません。神様が辛抱強く待っていていらっしゃるのはあなたなのです。いずれにしても、神様は働いていらっしゃるのです。

私のいのちをお持ちになってください。

主よ、あなたに、みこころのままにお捧げします。

私の手をお持ちになってください。

あなたの愛の衝動で私の手を動かしてください。

—— フランシス・ハーバージェル

讃美歌 368

祈り お父様。あなたという貴いお手本に従うように、私たちを勇気づけてください。

キリストを通して。アーメン。

ロバート・W・ローレンス
ネバダ州 ヨーク

10月17日(金)

天使の食物

聖書朗読 ヨハネ 6:41~59

わたしはいのちのパンです。 ヨハネ 6:48

天使が昼食に何を召し上がるかはわかりませんが、私の好物のデザートが「天使のケーキ」だというのは確かです。母は、私を喜ばせるために、よく私の誕生日ケーキに1ドル銀貨を隠したものでした。

神様はイスラエルの民に「天使の食物」——マナと呼ばれる神様からの食物をお与えになり、天使の食物はイスラエルの民を十分に養いました。しかし、彼らは同じ食物に飽きてしまい、文句をつぶやき始めました。天からさらに食物が降りてきて、うずらも降りてきました。しかし、イスラエルの民の不平のつぶやきはより多くなり、そこには喜びも驚きもありませんでした。

イエス様が、ご自身が「いのちのパン」であると、ユダヤ人に告げたとき、ユダヤ人も同じように疑問をつぶやきました。彼らは、ナザレ出身の大工に従うことを望んでいませんでした。自分は人を頼らなくても自立してやっていけると思うと、人は傲慢になるものです。イエス様のご存在は、頭の中のこういったうぬぼれを変えます。古いマナは新しい食物を指し示しました。古い食物は肉体的な空腹を満たしますが、イエス様は私たちの霊的な空白を満たしてください。

イスラエルの民はマナを食べましたが、彼らはやがては死にました。私たちが「いのちのパン」をいただくなら、復活のときに永遠のいのちが与えられます。御父は、御子をたたえる者たちに、なんとという貴いパンを与えてくださったのでしょうか！ 「いのちのパン」であられるイエス様を喜びましょう。

讃美歌 187

祈り 永遠なるお父様、主なるキリストだけがお与えになることができる食物で私たちを養ってください。私たちをあなたの愛で満たしてください。

イエス様の御名において。アーメン。

スティーブン・クラーク・ゴード
カリフォルニア州 ブライズ

10月18日(土)

神 の 時

聖書朗読 ヨハネ 7:1~13

気をつけなさい。目をさまし、注意していなさい。その定めの時がいつだか、あなたがたは知らないからです。
マルコ 13:33

「タイミングがすべて」という言葉を聞いたことがあると思いますが、それは本当です。しかし、神様の時について言うならば、その時が正しいことは疑いのないことです。神様の時は超越的なものであり、永遠の目的において地上と天国が遭うときなのです。

神様の時は、確かに私たちの時間の観念とは異なります。ヨハネの福音書第7章では、イエス様が従う神様の時と、人間の時間との間に緊張感が生じています。これは、イエス様の敵と友のタイミングの間に生じた緊張感です。イエス様は「わたしの時がまだ来ていません」と2回も言われました。

イエス様は、周りの人たちとは時間の認識の仕方が異なります。神様は、真実のタイミングをご存知です。ですから、イエス様もイエス様が栄光(死と復活)を受けられる決められた時を知っていらっしゃいます。その時はイエス様をこの世に遣わされた御父が定められたものです。ですから、その時は、時間を超えた神様の主権を奪うために、イエス様の死を計画している人たちの力の及ばないものです。御父だけがその決められた時をご存じであり、御子にその時を明らかにされるのです(12:23, 27 13:1 17:1)。

神様の時は、私たちの希望です。そして、その時は、聖霊が私たちの生活と交わる時であり、神様をご自身の目的のために私たちを慈悲深く支えてくださることを、私たちが覚えるなら、見極めて従うものなのです。

讃美歌 第二編 58

祈り 神様、そして私たちの主、イエス・キリストの御父よ。この世の縛りの中にあって、私たちの救い主イエス様を通してあなたにご栄光を帰するあなたの時を、私たちに示してください。アーメン。

クレイグ・ボウマン
ミシガン州 ロチェスター

10月19日(日)

神様は私たちのうちに宿られた

聖書朗読 ヨハネ 7:14~24

しかし、祭りもすでに中ごろになったとき、イエスは宮に上って教え始められました。
ヨハネ 7:14

私にとって1日のうちで一番すばらしい瞬間は、家に帰って「お父さん、お帰りなさい」という言葉を聞くときです。息子たちが走ってきて、私の足に抱きつきます。私がまるで長期旅行から帰ってきたかのように、息子たちは私を迎えます。「オズの魔法使い」のヒロイン、ドロシーは「わが家がいちばん」と言いましたが、その通りです。

ヨハネの福音書第7章は、仮庵の祭りの最中のイスラエルでのことです。神様は、祭りの間に住む仮庵を建てることをイスラエルの民に命じられました。仮庵は、ユダヤ人に、自分たちの祖先が、その不従順さゆえに40年間荒野をさまよったことを思い起こさせるものでした。祭りはまた前を見るときでもありました。ユダヤ人が屋根を通して天国を見ることができるよう、仮庵はおおざっぱに建てられました。それは、この世を通り過ぎる巡礼者を思い起こさせるものでした。

ユダヤ人たちは、イエス様が律法をご存じであることに驚きましたが、私たちは神様が宿られる究極の肉体がイエス様であること、人間の形をした神様であることに驚きます。私たちの不従順さゆえに、永遠なる神様が人間の身体の中に宿られたのです。イエス様の仮のお姿は、私たちの永遠のいのちのためです。イエス様の平安のうちにいることを、イエス様は私たちに望んでいらっしゃいます。私たちの人生のうちでもっともすばらしい瞬間は、神様が待っていてくださる家に帰り、神様の「よくやった。良い忠実なしもべ」というお言葉を聞くときです。

讃美歌 121

祈り お父様、肉となられ、私たちのうちに住まわれてくださったことを読むとき、私たちは驚かされます。神様のみもとに私たちが住むことができるように、イエス様はそうしてくださいました。この世のいのちがいかに一時的なものであるか、そして永遠のいのちがいかに永久的なものであるかがわかるように助けてください。

イエス様の御名において。アーメン。

ジョン・バーネット
テネシー州 ナッシュビル